

# 食道静脈瘤硬化療法を紹介

内視鏡室：○宮下かよ子・矢野いづみ・中川 蓉子

## 1. はじめに

食道静脈瘤の原因となる疾患のほとんどは、肝硬変を中心とする慢性肝疾患であるため、原疾患に対する治療はむずかしいことが多い。また、静脈瘤から一旦出血すると大量出血になりやすく、しばしば致命的になるおそれがある。

現在、食道静脈瘤に対する治療法としては、一般に手術及び静脈瘤硬化療法が行われている。この食道静脈瘤硬化療法（以下硬化療法とする）は、出血時の緊急手段として、また再出血予防としても有用である。

そこで硬化療法の実際をビデオを通して紹介し、看護婦相互の理解を深め、継続した看護に役だてたい。

## 2. 方法

- (1) 過去5年間の硬化療法を施行した患者について、緊急と待機・予防例に分け調べる。
- (2) 硬化療法のビデオを作製する。

## 3. 結果及び考察（表）を参照

- (1) 総件数では、昭和63年から徐徐増加し、平成2・3年にはピークに達した。限られた病室と内視鏡室では、これ以上の件数の増加は不可能である。
- (2) 5年間の適応例別にみると、緊急例が76件19%，待機・予防例が294件81%だった。これを年度別にみると緊急例は大差ないが、待機・予防例は増加の傾向にある。このことは、手技や治療方針が確立され、予防または根治的に硬化療法を施行するようになったからと思われる。
- (3) 硬化療法のビデオを作製した。

〈適応〉

食道静脈瘤	緊急例	— 静脈瘤からの急性出血
	待機例	— 出血の既往のある例あるいは、急性出血が硬化療法により止血され、引き続き食道静脈瘤の根治を目的に期待的に硬化療法を継続する例
	予防例	— 出血が予測される症例

〈必要物品〉

直視鏡電子スコープ・モニターテレビ1式・硬化療法用局注射針（20or23G）、硬化療法用バルーン、硬化剤（オルダミン）、蒸留水10ml、散布チューブ、トロンピン、0.1%ボスミン入り生食500ml、注射器（2ml・2本、10ml・1本、20ml・2本、50ml・1本）、ホリゾン、プスコパン、絆創膏、アルコールガーゼ数枚、咽頭麻酔剤、マウスピース、キシロカインゼリー、緊急用物品、経過用紙

#### 〈前処置〉

- ①患者に説明をする。
- ②十分咽頭麻酔をする。
- ③スコープにあった硬化療法用バルーンをしっかりスコープに絆創膏で固定する。数回25mlの空気で膨らませ、異常のないことを確認しておく。
- ④プスコパン1A筋注、Vラインからホリゾンを適量管注する。

#### 〈実際〉

- ①スコープを挿入して、食道・胃を十分観察後、穿刺部位を決める。
- ②バルーンを20ml30mlの空気で膨らませ、静脈瘤の血液を停滞させる。
- ③穿刺をする。血液の逆流を確認して、硬化剤をゆっくり注入する。
- ④十分硬化剤を停滞させた後に抜針する。と同時にバルーンの空気を抜く。出血のある場合は、バルーンを穿刺部で再度膨らませ出血時間だけ圧迫止血する。後0.1%ボスミン入り生食で洗浄する。
- ⑤止血が確認できたら、散布チューブにてトロンビンを散布して、治療を完了する。

#### 〈合併症〉

- 一次的合併症 — 食道静脈瘤出血、ショック、発熱、肺梗塞、肝障害、腎障害、脳血管障害など
- 二次的合併症 — 食道潰瘍、食道びらん、潰瘍出血、食道穿孔、胸水貯留、出血性腎炎、胃十二指腸出血、肺炎など
- 二次的合併症 — 食道狭窄など

#### 〈注意事項〉

- ①治療の理解ができているかを確認する。緊急の場合は十分説明をする。
- ②義歯がある場合は、はずしてもらう。
- ③緊急時の対応 — 心電図・血圧計モニター
- ④出血時の処置 — 輸血の準備、確認
- ⑤苦痛の緩和 — 声をかける。体動がおきないように注意する。
- ⑥感染予防 — 器械・器具の消毒、自己管理
- ⑦病室への引継 — ポイントをしぼる。

#### 4. まとめ

食道静脈瘤硬化療法の看護ポイントは、(1)緊急時の対応 (2)出血時の処置 (3)苦痛の緩和 (4)感染防止ももちろんのこと (5)二次的、三次的合併症も重要である。

今回、食道静脈瘤硬化療法のビデオ紹介が、看護婦相互の理解を深め、病室との継続した看護に役立てば幸いである。

#### 5. 引用・参考文献

- 豊永 純：食道静脈瘤の内視鏡的硬化療法の適応と限界，日本臨床48巻4号，1990，P 29-31
- 三条 健昌：合併症のアンケート調査について，日本臨床48巻4号，1990，P 151-152

(表) 5年間の適応別総件数

年度別	待機予防例数	緊急例	総件数
昭和63年度	35 (66%)	18 (34%)	53
平成元年度	53 (82%)	12 (18%)	65
2年度	70 (85%)	12 (15%)	82
3年度	76 (88%)	10 (12%)	86
4年度	60 (80%)	15 (20%)	75
5年間の合計	294 (81%)	67 (19%)	361